

原文

枕草子

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、
からすの寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど
飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁などの連ねたるが、
いと小さく見ゆるは、いとをかし。
日入りはてて、風の音、虫の音など、
はた言ふべきにあらず。

現代語訳

秋は夕暮れ（がよい）。夕日がさして、山の端に近づいた頃に、からすがねぐらに帰ろうとして、三羽四羽、二羽三羽と急いで飛んでいく様子も、しみじみとしたものを感じさせる。ましてや、雁などが列をつくっているのがとても小さく見えるのは、とても趣がある。日がすっかり沈んでしまつて、風の音や虫の声などをするのも、言つまでもない（ほど趣がある）

重要語句

山の端↓山が空に接するところ。



つと→つても

あはれなり↓しみじみしている。

言ふべきにあらず↓言つまでもない

